愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2024年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	情報メディア論		
担当者(Instructors)	舩木 恵一	配当年次(Dividend year)	2
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択
			実務家教員科目(Pro teacher course)

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

本講義ではメディアの発達や変化に伴う情報流通の変容が、社会へ与える影響について学びます。古代から近代にかけて、どのようなメディアが誕生し、社会にどのようなインパクトを与えてきたのか。現代社会ではデジタル化がメディアと情報流通にどのような変化を及ぼしているのか。また近い将来において、AIやメタバースなどの新しい技術がメディアと情報流通をどう変容させ、社会がどのような影響を受けるのか。この科目は記憶媒体の技術論ではなく、メディア史やメディア理論を通じて、メディアと情報流通に関するリテラシーを高めてゆきます。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	対面方式で行います。毎回主要なテーマ（問い）を設定し、その問いに関する回答や関連する知識を、スライドや動画資料を用いて解説してゆきます。学生は講義後、毎回提示される課題に取り組むことで、復習を行い、またテーマによっては予習に取り組むことで、テーマに関する理解を深めることができます。
当該科目と実務との関係(Relationship between cource and practice)	広告・メディア産業における通算27年以上の実務経験をもとに、主要メディアとその影響力について、消費者への情報伝達、企業の情報発信といったマーケティングからの視点、さらにメディアビジネス事業者の視点を交えて説明します。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	ブリーフィング～情報メディア論の学び方	講師略歴紹介、授業の狙い、到達目標、講義の進め方、各回のテーマ（問い）、課題の取組方法、成績評価基準、参考書籍紹介など	□
第2回	メディアとは何か？　マスメディアとは何か？	公衆論、コミュニケーション論、マクルーハン理論など、メディアに関する学問が発達した背景と、主要な理論や論点について学ぶ	□
第3回	古代のメディアはどのようなものか？文字や紙はどのように生まれ世界に広まったのか？	文字の誕生と役割、紙の発明と世界への普及、持ち運べるメディアと、持ち運べない巨大建築など、古代から中世までの情報伝達について考察する	□
第4回	印刷技術で広まったものとは何か？それがヨーロッパに与えた影響とはどういうものだったのか？	東洋と西洋の印刷技術史の違いや世界帝国が果たした役割を通して、印刷による情報伝達がヨーロッパ社会をどう変え、なぜルネッサンスや産業革命を起こせたのか世界史の謎をメディアの視点から解く	□
第5回	新聞はどのように登場したのか？　第二次大戦中に、なぜ新聞は軍部の言うままの報道をしたのか？　ジャーナリズムの役割とは何か？	近代史における市民の政治意識の発達に、新聞はどのような影響を果たし、社会をどう導いてきたのか。戦争時における新聞の動向を踏まえて、メディアの公共性とは何かを考える	□
第6回	テレビはどのようにしてマスメディアの王様になったのか？　テレビが人類にもたらしたものとは何か？	通信や映像技術の発達はいつどう始まったのか。メディア産業の形成過程と社会に及ぼした影響を、電信・電話・ラジオ・テレビの普及過程とともに考察する	□
第7回	前半の振り返り	前半授業の振り返りと、主要な概念・キーワードの復習を行う	□
第8回	コンピュータやロケットの開発が社会にもたらしたものとは？	軍事技術であったインターネットが登場した背景と、冷戦終結後に世界に普及したICT技術を通じて、情報のグローバル化とそれが社会に与えた変化を俯瞰する	□
第9回	何故インターネット広告だけが急成長しているのか？	広告の機能と役割、マスメディアとインターネットの違いを理解し、広告やメディア産業のデジタルシフトが社会生活やビジネスにどのような地殻変動を起こしているのかを考察する	□
第10回	デジタルネイティブは世界をどう変えるのか？	生まれながらにしてインターネットがある世代とそれ以前の世代の情報感覚の違いを考察し、メディアの発達と普及における年代的な違いがどのような差を生むのか、特にデジタルメディアの根源的な影響力を考える	□

第11回	日本では通信と放送はなぜ融合しないのか？　またICT技術を巡ってアメリカと中国が対立する意味とは何か？	我が国においてインターネットとテレビ産業の融合が遅れた理由、第5世代通信システムがもたらす技術的な進化と社会へのインパクトを理解し、日本の通信インフラの在り様と次世代ビジネスを考察する	□
第12回	プラットフォームビジネスは、なぜ急速に成長し、しかも市場で一人勝ちできるのか？	注目されているプラットフォームビジネスの構造について、急拡大しているVODや各種マッチングサービスのビジネスモデルを通じて理解し、インターネット時代の新規ビジネスの要点を探る	□
第13回	AIのアルゴリズムにもとづくお買い物は我々をどこに導くのか？	メディアとコンピュータの融合によって変化した消費行動モデルを理解し、デジタルマーケティングが導く未来社会の行方を推察する	□
第14回	データは21世紀の石油なのか？　ビッグデータがもたらす恩恵にはどのようなものがあるのか？	100年間に起きたメディアの大きな進化によって、劇的に増加し続ける情報流通がもたらす価値の本質とは何か、高度データ社会における情報価値を考察する	□
第15回	後半の振り返り	後半授業の振り返りと、主要な概念・キーワードの復習を行う	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

講義前に参考文献や検索等でテーマに関する予習（2時間程度）行い、講義後は課題への取組を通じて講義内容の復習を行います（2時間程度）

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

提出された課題は、添削や採点の上、LMSから返却します。講義内容についての質問はチャットにて受付ます。また公開されたオフィスアワー内であれば、アポイントを取り付けた上で、研究室での面談も可能です。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
思考力・判断力・表現力	◆ 2021地域ビジネスDP2	インターネット時代の情報流通を社会全体との関連で幅広く思考し、多面的な判断の上、自分の考えを発信できる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験（in-class exam)	その他(Other)
			100%	

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

授業内試験とは出席点ではありません。課題の提出状況とその内容、講義テーマの理解度によって評価を行います。本講義の出席は、各回の課題提出の期日順守をもって認定されます。

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	テキストはありません。講師が授業資料を用意します	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	佐藤卓己、「現代メディア史」、岩波書店	
2	マクルーハン＋カーペンター、「マクルーハン理論」、平凡社	
3	吉見俊哉、「メディア文化論」、有斐閣アルマ	
4	小泉宣夫、圓岡偉男「情報メディア論」、講談社	
5	中橋雄、「メディア・リテラシー論」、北樹出版	